くらべてみた新聞

発行日
令和6年
8月29日

発行者
川越市立
川越西小学校
4年1組
小関宿生

SL大樹、スペーシアX乗記

2024年の5月27日、鉄道好きな父と妹と一緒に鉄道の旅をしました。乗ったのはSL大樹とスペーシアXどちらもすてきな列車でした。

SL大樹 5号

(下今市〜鬼怒川温泉)

下今市駅のホームでSL大樹を待っていると、「ゴッゴッ」と大きな音を立て、大樹がやって来ました。大樹は3機のC11という機関車がありますが、この日はC11形123号機でした。また、「東武博物館35周年」の特別なヘッドマークでした。

車内は、いつも乗る電車とは違い、テーブル付きのボックスシートで車内販売のジェラートやアテンダントさんの観光案内を楽しみながら、ゆっくり過ごすことができます。

展望デッキには、窓がないため、SLの煙の匂いを感じながら、日光の絶景が楽しめます。

沿線にいるたくさんの人が、大樹に向かって手を振ってくれました。地元の人にも愛されている列車なのだと思いました。

スペーシアX 10号

(鬼怒川温泉〜浅草)

スペーシアXは、新型の特急電車です。白い車体や六角形の窓がとても美しいです。

今回乗ったのは、1号車のコックピットラウンジ。ふかふかのカーペットやソファ、照明などが電車とは思えないきれいな内装でした。

コックピットラウンジ一番の特徴が、車内にカフェがある事です。このカフェは、沿線の名産品を使った食べ物や飲み物へ大人はお酒もしのメニューがあります。私は、日光のみその湯葉を使ったみそ汁を飲みました。みその香りがしておいしかったです。

乗車中は、車掌さんが声をかけてくれ、記念撮影やシールをくれるなどしてくれました。とてもやさしい車掌さんだと思いました。

浅草駅までの2時間が、あっという間に感じました。

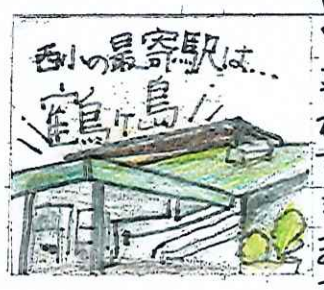
私の街の、東武東上線

東武東上線は、池袋〜寄居までの全長75kmを39駅で結んでいます。今から110年も前の大正3年に池袋〜田面沢(たもの)間で開業しました。

沿線には、和光、朝霞、志木、坂戸、東松山、小川などの都心へのベッドタウンがあります。

そして、私の街、川越があります。川越は、小江戸として観光でも有名です。その他にも、森林公園やこども動物園(高坂)などの遊べるスポットへ行けます。

川越から、有楽町線や副都心線に直通していて、都内や葛西臨海公園やみなとみらいなど、色々な所へかんたんに行く事ができます。



くらべてみた! 東上線と本線の列車

SL大樹やスペーシアXの様な列車が同じ東武鉄道の東上線を走らないのはなぜだろうと思い、東上線とこれらの列車が走る本線の違いを調べ、走る列車について考えました。

本線の路線は、浅草から栃木県の日光・鬼怒川や群馬県の伊勢崎などを結んでいます。沿線に草加、越谷、春日部などの都心へのベッドタウンがある事は東上線と似ていますが、路線の長さがとても長い事や世界的な観光地の日光や浅草を結んでいる事が大きな違いです。

そこで、それぞれの路線で観光するのに必要な列車を考えました。

○東上線
川越などの都心から近い観光地に気軽に速く行ける
→川越特急やTJライナーなど

○本線
日光・鬼怒川など、遠い場所へ移動時間もゆっくり楽しめる
→スペーシアX、大樹などの特急や観光専用の列車

編集後記

今回、東上線にはなぜ本線で走る列車が走らないのか?という疑問の答えをまとめてみました。うまくできたのでうれしいです。